

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第26号
平成26年2月7日発行
発行:千葉県がんセンター

理念

心と体にやさしく、希望の持てるがん医療

私たちは、一人でも多くの千葉県民に、
質の高いがん治療を提供します。

患者と医師のあいだ

千葉県がんセンター 副病院長 永田 松夫



旅先の海沿いの城下町で妻と二人、昼食を終えレストランの駐車場から車を道路に乗り出したとき、道路の真ん中に仰向けに倒れている高齢の男性が見えた。近くに自転車投げ出され、少し前に軽乗用車が斜めに止まっている。一目瞭然、自転車で走行中の老人

が軽乗用車と衝突し、道路にたたきつけられた交通事故直後の光景であった。私は車を降りて老人のところに急いだ。意識がなく、自発呼吸、脈拍もない。耳、鼻、口、後頭部からおびただしい拍動性出血があり、道路が血の海になっている。私はふり返って歩道に2、3人見守っている男性に向かって大声で「救急車を！」と叫んだ。「いま呼びました」との答え。「患者」の状態を一目見て、もう救命は無理だろうと思いつつも心マッサージを始めた。数分経過して消防車、パトカー、救急車が到着した。救急隊員とともに処置を続け、警察官は道路を遮断した。蘇生術にもかかわらず、「患者」の状態がよくなることはなかった。救急隊員が心マッサージと人工呼吸をしながら救急病院に搬送して行くのを私は見送った。

ふと周囲を見ると、軽乗用車のドライバーであろう若い女性が母親らしい初老の女性の胸で泣きじゃくっていた。歩道には少なからず人が集まっていたが、私が駆けつけるまで不安な表情で、ただ遠巻きに傍観しているだけだった。私が蘇生術をしている間も、手伝おうと駆け寄る人は誰1人いなかった。しかし、私に対する好意的な表情・態度から判断すると、決して無関心ではなかつ

た。できるなら手助けしたい、しかしどう手助けしたらいいのかわからない、おびただしい出血に圧倒されて身体が動かない、助けようとして逆に害を与えてしまったらどうしようなどと思っていたのではなからうか。外科医である私には何のためらいもなく、ただ倒れている負傷者を助けようと本能的に身体が動いたというに過ぎない。医療者でない人たちにとっては、ただ驚いて見ている以外には何もできなかったのである。

この経験から様々なことを考えさせられる。まず、病院の非常時のリスク管理のこと。災害に見舞われたときに、われわれ医療スタッフはスムーズに対処できるのだろうか。あの子どもの人々みたいに、おろおろ心配しながらただ呆然と見守るだけになりはしないか。緊急時に適切に行動するには、事前に実のある訓練や経験が必要なのではなからうか。

それから、患者・医師間に存在する意識のギャップについて。知識と経験の点で圧倒的な差がある患者と医師の間には、それを上回る目に見えない高い壁がある。医師というだけで患者の上にあると思われてしまう。見えない「あげ底」があるといってもいいだろう。医師にとっては当たり前という言葉や行動・態度が患者にとっては、時に恐ろしいものであり、不安であり、意味不明であり、また時には強烈な圧迫感になる。そのギャップの存在に医師が気づかない限り、いくら言葉を重ねても分かり合えないのではないか。「あげ底」の分だけ目線を低くすることが必要なのではないだろうか。

その他多くのこと、またひとりの「患者」から沢山教えられました。

臨床の現場から

薬剤師さんは何をしているの？

薬剤部長 近藤 芳弘

病

院には医師、看護師のほかにもいろいろな職種の職員がいます。薬剤師もその一つですが、病院の中で薬剤師が何をしているかということは、あまり知られていないと思いますので、一部ですが紹介させていただきます。

かつて、病院薬剤師の主な仕事は外来患者さんにお渡しする薬を調剤することでした。しかし、国の方針に従い千葉県がんセンターでも、患者さんは会計後に渡された院外処方せんを保険薬局に持参して、薬をもらうようになりました。また、がん患者さんに抗がん剤を投与するがん化学療法はこのところ増加しています。さらに、患者さんが入院の際にいままで服用していた薬を持参して、病院内で服用する例も多く見受けられます。

このような状況の変化に伴って、私たち薬剤師のやることも大きく変わってきました。千葉県がんセンターでがん化学療法を実施する際、注射薬では実施前の処方内容確認、実施する薬液の調製、初回説明文書の作成といったことを薬剤師がやっています。さらにどのような内容、方法で抗がん剤を投与するかといった検討を医師、看護

師などと共に行い、電子カルテに登録することも薬剤師の仕事です。外来での内服抗がん剤は保険薬局で調剤されますが、そうした保険薬局に患者情報、投与スケジュールなどの情報提供をしていくこと（薬薬連携）に必要な資料作成も薬剤師がやっています。

千葉県がんセンターではすべての病棟に薬剤師を配置しています。そうした薬剤師は患者さんへの服薬指導、副作用の確認だけでなく、患者さんが持ち込んだ薬を使用する場合は安全に使用できるようにしています。さらに、患者さんに投与される薬の内容を確認すること。医師、看護師などの質問に答えての情報提供など、薬が安全に使用されるように気を配っています。

皆様が入院された際に、薬剤師を見かけましたら気軽に声をおかけください。笑顔で答えてくれると思います。



病棟での服薬指導の様子

第12回 県民公開セミナー報告

今年で12回目を迎える県民公開セミナーを、平成25年10月20日(日)に京葉銀行文化プラザで開催いたしました。

今年のテーマは「がん、その後を支える」です。中川原病院長から挨拶があった後、植田先生が「治療後の生活を考えた外科治療：前立腺がんにおけるロボット支援手術」、患者相談支援室の中村さんが「治療選択に迷ったら～治療後の生活を考えた意思決定～」、栄養科の佐々木さんが「がんになった後の食事」、米本先生が「小児がん経験者のQOL：骨肉腫を中心に」、そして国立がん研究センターの高橋先生が「がん、その後を支えるために～サイバーシップ～」をテーマにそれぞれ講演を行いました。その後の総合討論では、「治療後の生活を考える」をテーマに、司会の秋月先生を中心にパネリスト全員で、会場からの様々な質問に答えていきました。会場ロビーでは患者団体の方にブース展示という形で御参加頂いたほか、当センター発行の「がん患者さんのためのレシピと工夫」の出張有償頒布も行ないました。

当日はあいにくの大雨となりましたが、156名の方に御参加頂きました。来場者の方のアンケートからは、わかりやすかった、元気づけられたといった声を頂いた一方、会場や進行の面などで率直な意見も頂き、今後の改善点としていきたいです。



地域医療連携室だより

地域連携クリティカルパス、 7年間で5000件！

千葉県がんセンターは、患者さんの安心と医療の質を地域医療連携においても大切にするために、2007年から地域連携クリティカルパスに取り組んできました。これまで多くの医療施設にご協力を頂き、昨年末までに5,000人を超える患者さんにパスを使い、連携を行いました。

地域連携パスは治療病院と地域の医療施設が共有する診療計画表のことです。連携後はこの計画表に基づいて検査や治療を分担して行っています。実際に利用した患者さんからは「通院時間が短くなった」「かかりつけの先生とがんセンターがつながっているのが安心」などの声が聞かれています。

私達は、地域連携パスを患者さんに利用して頂くにあたり、患者さんの安心と医療の質確保を大切にしています。

患者さんの安心のために、地域医療連携について十分な説明を行い、同意を得て連携を行っています。また、

連携する医療施設についての情報も提供しています。連携後も必要に応じてがんセンターを再受診できます。

連携後に医療の質が確保されるために、診療計画は医学的な妥当性に基づいて作成しています。連携する医療施設は、地域連携パスについて地域医療連携室のスタッフから詳しい説明を聞いた上で、診療計画を分担できるかを判断して頂いております。

今回、地域連携パスの適用件数が節目の5,000件を超えましたが、今後も患者さん中心の地域医療連携の理念を忘れることなく、取り組んで参ります。

パスの種類と適用件数
(2007年～2013年)

種 類	適用件数
胃がん／胃腺腫	293
大腸がん	73
肝がん	2
乳がん	1,513
肺がん	9
子宮頸がん	104
前立腺がん	2,502
膀胱がん	122
緩和ケア	394
合 計	5,012

診療実績

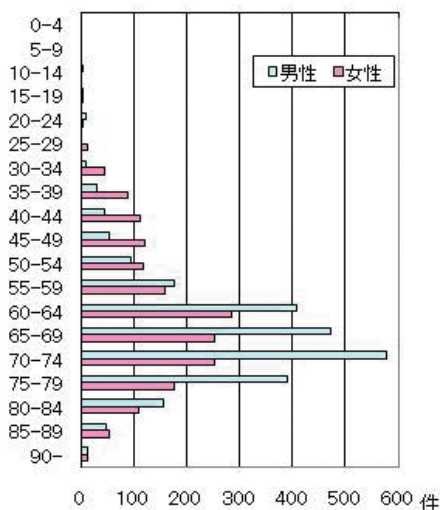
院内がん登録 (2012年)

診療情報管理室

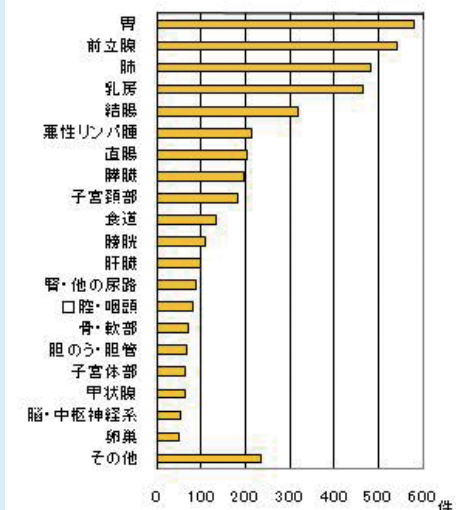
院

内がん登録はがん診療連携拠点病院が自院で診療したがん患者さんの診断・治療情報を登録するものです。登録内容は国のがん対策情報センターが毎年、集計し、公表しています。当センターの登録件数(2012年)は4,315件でした。

1. 5歳年齢階級別・男女別登録数



2. 部位別登録数(上位20疾患)



初診担当医表

2014年2月1日現在

【予約受付時間】

月曜日～金曜日(祝祭日、年末年始を除く)

9時～17時

診療科	月	火	水	木	金
呼吸器外科	飯笹 俊彦		飯笹 俊彦		飯笹 俊彦
呼吸器内科	芦沼 宏典	新行内 雅斗 板倉 明司 芦沼 宏典	吉田 泰司	新行内 雅斗 板倉 明司 吉田 泰司	芦沼 宏典
消化器外科	外岡 亨 趙 明浩 池田 篤	山本 宏 早田 浩明 鍋谷 圭宏	滝口 伸浩 貝沼 修 池田 篤 柳橋 浩男	永田 松夫 滝口 伸浩 趙 明浩 鍋谷 圭宏	山本 宏 貝沼 修 早田 浩明 武藤 頼彦
消化器内科	山口 武人 傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人	傳田 忠道 原 太郎 須藤 研太郎	山口 武人 傳田 忠道 中村 和貴 廣中 秀一	傳田 忠道 原 太郎 廣中 秀一	中村 和貴 須藤 研太郎 相馬 寧
婦人科	(担当医)	田中 尚武	(担当医)	田中 尚武	(担当医)
泌尿器科	小丸 淳 佐藤 陽介	植田 健	大關 孝之 高木 公暁	小林 将行 佐藤 陽介	深沢 賢 滑川 剛史
脳外科	井内 俊彦	(担当医)	井内 俊彦 堺田 司	(担当医)	堺田 司
頭頸科	佐々木 慶太 河田 佐和子	佐々木 慶太 河田 佐和子		佐々木 慶太 河田 佐和子	
整形外科	石井 猛 米本 司	石井 猛 岩田 慎太郎		石井 猛	米本 司 岩田 慎太郎 鴨田 博人
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 伊勢 美樹子	酒井 力 辻村 秀樹 菅原 武明	熊谷 匡也 酒井 力 菅原 武明	熊谷 匡也 伊勢 美樹子	熊谷 匡也 酒井 力 辻村 秀樹
乳腺外科	山本 尚人	吉井 淳 岩瀬 俊明	山本 尚人 中村 力也	吉井 淳	中村 力也
形成外科				秋田 新介	
緩和医療科	渡邊 敏	渡邊 敏		渡邊 敏	渡邊 敏
精神腫瘍科	秋月 伸哉	秋月 伸哉		秋月 伸哉	秋月 伸哉
核医学診療部		戸川 貴史	久山 順平	久山 順平	戸川 貴史

【診療予約のご案内】

予約電話 043-264-5431 (代表番号) 地域医療連携室 予約担当

*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。

*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

*がん検診等の結果、精密検査が必要とされた場合は、検診関連書類の他に紹介状をお持ち下さい。

看護の現場から

リンパ浮腫の患者さんへの関わり

外来看護師（医療リンパドレナージセラピスト）
永田 貴美江

がん患者におけるリンパ浮腫は手術や放射線、薬剤によるものなど原因も様々ですが、婦人科、乳腺外科、泌尿器科などでリンパ節の手術を受けた方にみられることが多い症状です。

以前はリンパ浮腫についての情報が医療者側にも少なく、お困りになられていた患者さんは少なくありません。平成20年4月より保険適応として「四肢のリンパ浮腫治療のための弾性着衣等に係る療養費の支給」が認められるようになり、さらに「リンパ浮腫指導管理料」が算定できるようになりました。最近は医療者、患者さんの関心も高くなってきています。

がんセンターでも、手術前後でリンパ浮腫についての説明を行なっています。早期発見、日常生活での注意が必要であり、看護師が病棟、外来で予防と対策についての指導をおこなっています。

しかし注意はしていただいても、何らかのきっかけ

でリンパ浮腫を発症されてしまう方もいらっしゃり、手術後何年も経過してから発症する場合があります。症状が出現した際には、主に外来でご相談いただいています。現在、リンパ浮腫専門外来はないため、当該科で対応させていただいております。さらに必要に応じて、リンパ浮腫について学んできたセラピストが患者さんの症状、生活背景などに沿ったきめ細かい指導を行っています。継続的なケアが必要とされるため、医師と相談の上、症状に応じて専門の施設をご紹介しますケースもあります。

平成25年より形成外科の秋田先生が外来診療を始め、手術適応がある患者さんに対しての治療を行なっています。手術の適応となる場合にも、弾性ストッキング（下肢）・スリーブ（上肢）などによる保存的療法の併用は必要とされています。セルフケアについての関わりは大切であり、看護師の役割も大きくなっていると思われます。

現在、リンパ浮腫治療での保険適応になっているのは、ほんの一部であり、保存的療法のほとんどが自由診療となっています。患者さんの負担も大きく、今後保険適応が拡大されることが望まれます。



下肢用の弾性ストッキング



平成25年度

千葉県がんセンター臨床研究総合センターシンポジウムのご報告



臨床研究総合センター主催の「平成25年度千葉県がんセンター臨床研究総合センターシンポジウム」が平成25年12月7日土曜日に行われ、新しく建設された事務研修棟会議室での初めての開催となりました。開会に先立って千葉県病院局、小田清一局長、並びに国立がん研究センター研究所長、中釜齊先生よりご挨拶をいただきました。続いて今回のテーマである「がん治療最前線：ゲノム創薬と免疫治療」の基調講演として、米国シカゴ大学教授、中村祐輔先生より「ゲノム情報に基づく新規抗がん剤の開発；現状と日本の

課題」をご講演いただきました。今後の日本のあるべき方向性を示す非常に興味あるご講演で、参加された皆さんは時間を忘れて熱心に拝聴いたしました。次にセッション1として中川原章病院長より「小児がんに対する分子標的治療薬開発」、神戸大学分子生物学分野教授、片岡徹先生より「rasがん遺伝子産物の分子標的薬のインシリコ創薬」のご講演をいただき、お二人の先生のこれまでの研究の歩みとがん治療に向けたご努力の一端をお聞かせいただきました。引き続きセッション2では当センター消化器内科部長、傳田忠道先生の「消化器がん分子標的治療の現状と将来展望」、千葉大学免疫細胞医学教授、本橋 新一郎先生の「がん免疫細胞治療の開発最前線」、および国立がん研究センター早期・探索臨床研究センター免疫療法開発分野長、中面 哲也先生の「がん免疫治療：次世代に向けた医療イノベーションの推進」の3つのご講演をいただき、それぞれ今回のテーマにふさわしい素晴らしい内容でした。年末、土曜日の午後にもかかわらず、センター内外から120名を超すご参加をいただき、盛況のうちに終了することができました。ご講演いただいた先生並びにご参加いただいた皆様に御礼申し上げますとともに、運営にご協力いただいたスタッフに感謝いたします。

副病院長 山口 武人

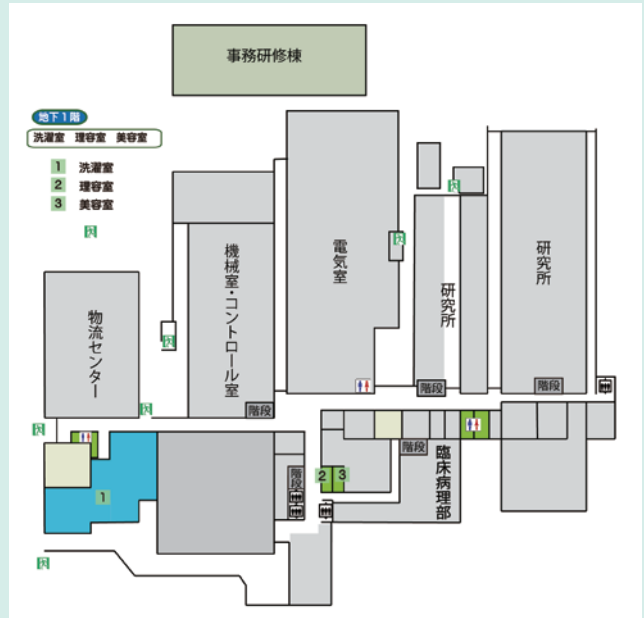


事務局移転のお知らせ

平成 25 年 11 月 25 日（月）より事務局が東病棟 1 階から事務研修棟 2 階に移転しましたのでお知らせします。事務研修棟はセンター敷地の一番北に位置しており（配置図参照下さい）大会議室、中会議室が新設されました。がんセンターが主催する研究会は今後この事務研修棟・会議室で開催される機会が増えます。移動の際にご不便をおかけしますが宜しくお願い致します。また、職員用「図書室」も平成 26 年 1 月 14 日から事務研修棟に移転しました。



（事務研修棟を西側から眺める）



がんセンターニュース バックナンバーのお知らせ

千葉県がんセンターニュースは、当センターが独自に発行している機関紙です。がんの最先端技術や最新の治療法の研究など様々な情報を皆様にお届けしています。

これまで「臨床の現場」では、がんの治療における当センター独自の診断・治療法を、また「研究の現場」では、臨床に直結するがんの最新研究を、さらに「看護の現場」では患者さんが安心して治療をうけていただけるような様々な看護サポートについてそれぞれ紹介してきました。バックナンバーはホームページ上で閲覧可能です。また、ホームページには、当センターの診療内容、診療を支える部門の紹介、受診方法などについて、いろいろな情報をわかりやすく掲載しておりますので、ぜひご覧ください。ホームページアドレスは <http://www.chiba-cc.jp/>。

または、 でWeb



JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 菅田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

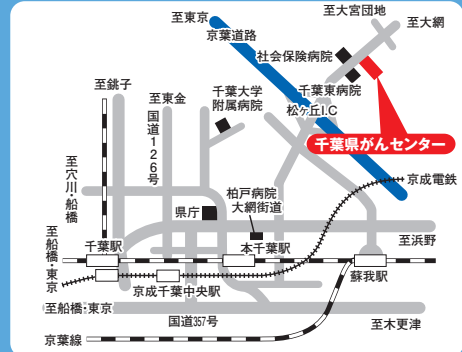
千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<http://www.chiba-cc.jp/>